

書陵部所蔵本

一冊

舞鶴中央図書館所蔵本

一冊

鈴鹿文庫本

一冊

住吉大社所蔵本 (一)

一冊

住吉大社所蔵本 (二)

一冊

多和文庫本

一冊

三井今井所蔵本

一冊

島根大学所蔵本

一冊

内閣文庫本 (二)

一冊

内閣文庫本 (三)

一冊

内閣文庫本 (四)

一冊

石川県立図書館川口文庫本

一冊

一、平仄の表記には、平声に○、仄声に●、韻字に◎を用いた。

一、語釈等で主に利用した辞典は諸橋轍次著『大漢和辞典』、および漢語大詞典編輯委員会・漢語大詞典編纂所處『漢語大詞典』である。語釈の中で諸橋轍次著『大漢和辞典』より引用したものは、多岐に亘るため、ここさらにそのことを記していない。

一、本書の分担は 便宜上八句ごとに区切り、原則、それを道真梅の会の会員一名の担当とした。担当箇所の語釈の最後に氏名を記し責任の所在を明記している。